

# 教育紙芝居集成

高橋五山と「幼稚園紙芝居」

高橋洋子 編著

川戸道昭・三浦佑之・米村佳樹 論考

「赤頭巾ちゃん」「不思議の国のアリス」「ピーターラビット」「こぶとりじいさん」――さまざまな童話を紙芝居に仕立て、初めて保育に導入された戦前の傑作シリーズ全三〇作品をオールカラーで集大成。教育史・外国文学の受容史・メディア史の空白を埋める決定版資料！

## 本書の特徴

- 「教育紙芝居の創始者」とも呼ばれる高橋五山による最初期の教育紙芝居「幼稚園紙芝居」(1935～1943)。所蔵する機関がほとんどないシリーズ全三〇作品を網羅し、ほぼ全ての絵と脚本をオールカラーで収録する。
- 各紙芝居には、脚本や絵の特徴、題材の出所、演出方法や、他の児童文化財との比較、戦中の国策との関わりや戦後の紙芝居運動とのつながりなど、幅広い視点から詳細に解説を付し、紙芝居研究への新たな視点を提示する。
- 「ゆっくり抜く」「さっと抜く」や「半分とめて二枚の絵を組み合わせる」など、演出方法が記された初めての紙芝居として、紙芝居の実演、読み聞かせなどを行う教育者にとっても、演出の歴史を学ぶ上で有用な情報源となる。
- 巻末には、各分野の研究者による論考と、高橋五山および児童文化に関する略年譜を付す。

## 本書をお薦めしたい方々

- 幼児教育・保育の研究者／教育学部、保育系学部
- 外国文学受容史の研究者／文学部
- メディア史・芸能史などの研究者／社会学部
- 紙芝居や、図書館における読み聞かせなどの実演家
- 教育委員会、幼稚園、保育園
- 大学図書館、短期大学図書館
- 都道府県立図書館、市町村立図書館、美術館、博物館 ほか

## 教育紙芝居集成——高橋五山と「幼稚園紙芝居」

全1巻／A4判変型／上製クロス装・函入  
358ページ・オールカラー  
2016年7月刊行 ISBN978-4-336-05932-1  
定価：本体 28,000円＋税

【編著者】高橋洋子（全甲社代表）

【論考】川戸道昭（英文学・中央大学教授）  
三浦佑之（上代文学・立正大学教授）  
米村佳樹（幼児教育・四国大学教授）

【推薦】三宅典子（英国児童文学・梅花女子大学名誉教授）  
野本茂夫（保育学・國學院大学教授）

◆国書刊行会の  
児童文化関連書

### 幕末・明治の絵双六

加藤康子／松村倫子 編著  
定価：本体 20,000円＋税  
ISBN 978-4-336-04188-3

江戸・明治・大正時代に玩具として流行した美しい絵双六を詳細な解説を付してオールカラーで紹介。



### 幕末・明治 豆本集成

加藤康子 著  
定価：本体 28,000円＋税  
ISBN 978-4-336-04620-8

幕末・明治期の豆本50点について、全丁を翻刻し詳細な書誌・解説を付してジャンルごとに収録。



## 国書刊行会

〒174-0056 東京都板橋区志村 1-13-15 TEL: 03-5970-7421 FAX: 03-5970-7427  
http://www.kokusho.co.jp e-mail:sales@kokusho.co.jp

## 取扱店

## ●申込書

ご記入後、お近くの書店へお持ち下さい。

『教育紙芝居集成 高橋五山と「幼稚園紙芝居」』定価：本体 28,000円＋税  冊

お名前

ご住所

お電話

発行：国書刊行会

2016年7月刊行  
全1巻 オールカラー

ISBN:978-4-336-05932-1

# 新たな紙芝居研究のために

高橋洋子

「紙芝居」という名称は広く知られているが、それが示すものは多種多様である。『黄金バット』のように街路等で行われた紙芝居は「街頭紙芝居」と呼ばれた。しかし、誕生直後から、絵がどぎつい、非教育的な内容である等々の理由で、教育関係者から強い非難を受けた。このような背景のなか昭和初期に生まれたのが「教育紙芝居」である。これまでの紙芝居研究は街頭紙芝居や国策紙芝居を史的に概観するものが多く、その一方、草創期の教育紙芝居へのアプローチがほとんどなされてこなかった。

本書では、「教育紙芝居の創始者」ともいわれる高橋五山による初めての紙芝居の仕事である「幼稚園紙芝居」シリーズを中心に取り上げ、絵や脚本を網羅的に収録する。同シリーズは、全国の幼稚園や保育所に普及し、その後の教育における紙芝居活用に強い影響を及ぼした。またグリム童話やイソップ童話、日本の神話や昔話などを源泉に、紙芝居というメディアへと昇華し、演出面でも多彩な工夫を凝らした。本書では紙芝居のメディアとしての特性にも着目し、また紙芝居の技法についてもつぶさに紹介している。教育史やメディア史の研究者、紙芝居を実演している教育者、読み聞かせの活動などをしていいる方々にも大いに参考になると思う。

今後ますます紙芝居への関心が高まり、新たな研究や創造が生み出されること、そのための一助として本書が活用されることを切に願う。

# 児童文化への知見に 再考を迫る労作

三宅興子（梅花女子大学名誉教授）

保育園や幼稚園、小学校で紙芝居をみた経験のあるひとは多いだろう。それは、拍子木を合図に集まり街角で演じられた「街頭紙芝居」とは全く異なる歴史を持つ「教育紙芝居」（あるいは「印刷紙芝居」）だったのである。しかし、これまでその実態を知ることができず、毎年、優れた紙芝居に与えられる「高橋五山賞」（一九六一年創設）のネーミングのもとになった肝心の高橋五山に関する情報も、わずしかかなかつた。

本書は、その飢えを一挙に埋めてくれる画期的な労作である。オールカラーの大判書籍で、一九三五年から四三年に出版された、初の教育紙芝居である「幼稚園紙芝居」全三〇輯の絵と脚本、あらすじと解説に、論考四編と略年譜も付されている。さまざまなアプローチを可能にする資料集であると同時に、研究書でもあり、紙芝居を面白くする創意工夫のあとを辿る稀有な歴史書でもある。

図案デザイナー・作家でもあった高橋五山は、大正時代に盛んであった幼児向け雑誌の編集者としての経験を活かして、「幼稚園紙芝居」でそのマルチな才能を開花した。絵雑誌の系譜から紙芝居への繋がり、海外児童文学の受容など、本書で示される周辺分野との関連も興味深い。

子どものメディアに関心のあるひとは、随所に「発見」があり、これまで持っていた知見の再考を迫られることにもなるだろう。この真の「豪華本」が出版されたことは、大変喜ばしく、多くの読者の目にふれることを強く願っている。

# 保育者の養成にも活用したい

野本茂夫（國學院大学教授）

高橋五山は、紙芝居を保育現場に普及させた開拓者である。本書は、その五山の「教育紙芝居」の全貌を知ることができ得難い書物である。本書では紙芝居一作ごとに詳細な解説が添えられ、五山が紙芝居の魅力ある絵や話をどのように創りだしたか知ることができる。一例をあげると、五山は、紙芝居は絵本のように「めくる」のではなく「ぬく」ものであるとし、テンポよく紙芝居を展開させる技法として「普通にぬく」「半分までぬく」「がたがたさせぬく」「さつとぬく」などの演出の仕方をこの時から工夫していたことがわかる。

保育現場では、よく紙芝居が視聴覚教材として使われる。しかし、昨今の保育現場では子どもの文化財として紙芝居を生かし切れていないと感じることも少なくない。帰りの会や通園バスの待ち時間に、紙芝居舞台を準備する余裕もなく紙芝居のセットを片手で握り、駆け足で読み終える。これでは、紙芝居を十分生かされていないのではないかと不安になる。

セットを舞台に入れ、演出を工夫し、大好きな先生が実演するところに紙芝居の魅力がある。もしかすると、保育者を養成する大学や短大、専門学校で十分な指導が行き届いていなかったのかもしれないと養成校の教員のひとりとして反省させられる。本書は、紙芝居が保育現場の価値ある教材であり、子どもの文化財であることを、高橋五山の「幼稚園紙芝居」を通して原点から解き明かしてくれる。保育者養成校や保育現場に携わる先生、紙芝居研究者や紙芝居実演家にぜひ薦めたい一冊である。



本文組見本（作品紹介ページ）42%縮小



本文組見本（解説部分）42%縮小

## 目次（抜粋）

### 《収録紙芝居》

#### 第1部 童話の紙芝居化と 保育への導入

赤頭巾ちゃん／花咲ぢぢい／長靴をはいた猫／大國主命と白兔／金の魚／三匹の仔豚／かぐや姫／ふしぎの国アリス物語／鴨とり権兵衛

#### 第2部 紙芝居における 演出技術の深化

ピーター兔／おむすびころりん／烏勸兵衛／七匹の小山羊／ハンスの宝／コブトリ／赤んぼばあさん／熊のお家

#### 第3部 戦争の激化と新たな 紙芝居への模索

オニツリハシ／スズメノオヤド／ネズミノヨメイリ／森の幼稚園 オペンタウ／ヨクバリイヌ／ベニスズメトウグヒス

### 《収録コラム》

紙芝居の裏面の工夫／大村主計と童謡／幼年文学の開拓者・浜田広介／幻灯のアリス／「ウゴク漫画」のアイデア／ペープサートとパネルシアター／紙芝居の演じ方の変遷／はり絵紙芝居と保育

### 《論考・年譜》

『三匹の仔豚』と『ピーター兔』——西洋童話の受容史からみた「幼稚園紙芝居」の革新性  
川戸道昭  
教育紙芝居になった神話と昔話（日本篇）——高橋五山の選択  
三浦佑之

戦後における紙芝居とその教育的利用——保育紙芝居を中心に  
米村佳樹  
保育紙芝居の歴史——高橋五山を中心として  
高橋洋子

### 編著者略歴

**高橋洋子**（たかはし ようこ）  
全甲社代表。高橋五山の紙芝居の復刻出版を手がけながら、紙芝居や児童文化を研究する。日本ルイスキャロル協会、仏教化におけるメディア研究会（大正大学）、佛教文化学会会員。主要論文に「保育紙芝居の出版」（『国文学 解釈と鑑賞』ぎょうせい、二〇一一年）など。

